

**令和4事業年度
公立大学法人岩手県立大学の業務の実績に関する評価結果**

令和5年8月

岩手県地方独立行政法人評価委員会

目次

	頁
1 はじめに	1
2 全体評価	
(1) 総評	1
(2) 各分野における令和4事業年度の取組	1
3 項目別評価	
(1) 項目別評価の状況及び「AA評価（特筆すべき進行状況にある）」の取組	3
(2) 改善が望まれる取組	3
別表 項目別評価の状況及び「AA評価（特筆すべき進行状況にある）」の取組	4

1 はじめに

本評価委員会は、平成 18 年 5 月に策定した「公立大学法人岩手県立大学に係る各事業年度業務実績評価実施要領」に基づき、

- ① 令和 4 事業年度における中期計画の実施状況の調査
- ② 当該事業年度における中期計画の実施状況の分析
- ③ 業務の実績全体についての総合的な評定

を内容とする評価を行った。(評価の具体的な方法は下記のとおり。)

記

(1) 項目別評価

法人による自己評価の結果を基に、法人からのヒアリング等を通じて、年度計画に照らして進捗状況を確認し、自己評価の妥当性の検証と評価を行った。

なお、教育研究等の質の向上に関する項目については、教育研究の特性への配慮から、専門的な観点からの評価は行わず、取組の外形的・客観的な進捗状況の観点からの評価を行った。

また、評価委員会が認める「A A 評価（特筆すべき進行状況にある）」については、

- ① 年度計画に掲げる取組を達成しつつ、更に中期計画に沿った取組が付加・実現されているもの
- ② 取組の結果、何らかの成果が明らかになっているものを対象とした。

(A A 評価の例)

- ・年度計画において、「制度の創設」を当該年度の取組としていたものについて、実績において「制度を創設」したことに加え、「制度を運用」した場合
- ・積極的な県内企業訪問の結果、県内求人数が増加した場合 など

(2) 全体評価

「項目別評価」の結果及び中期計画の達成状況を踏まえ、中期計画の全体的な進捗状況及び業務の実績全体について総合的な評価を行った。

2 全体評価

(1) 総評

中期計画に基づく令和 4 事業年度計画は「おおむね計画どおり進められた」と認められる。

ア 令和 4 事業年度計画の取組

令和 4 事業年度においては、年度計画に掲げる取組 45 項目全てが「B 評価（おおむね計画どおり進んでいる）」以上と評価され、また、そのうち「A 評価（計画どおり進んでいる）」以上の項目は 93.3%（42 項目）であることから、年度計画全般においておおむね計画どおり取組が進められたものと評価できる。

	令和 4 事業年度
A 評価以上	42 項目 (93.3%)
B 評価	3 項目 (6.7%)
C 評価	0 項目 (0.0%)
D 評価	0 項目 (0.0%)

イ 第二期中期計画からの継続課題

第二期中期計画からの継続課題となっている大学院の定員充足については、前年度と比較して受験者数、入学者数共に横ばいとなっており、依然として充足していないことから、今後も定員確保に向けて引き続き努める必要がある。

(2) 各分野における令和 4 事業年度の取組

- 大学の教育・研究、地域貢献等に関しては、
 - ① 専門教育との有機的な連携に配慮した基盤教育課程の構築に向け、文理融合データサイエンス教育プログラムの開始や数学学習相談室の開講、英語科目のカリキュラム改訂に向けた取組に着手したこと
 - ② 独自の新たな奨学給付金の創設による学生への経済的支援や「岩手県立大学明るい選挙推進サポーター県大 Voters」による学生の政治参加を

促進する取組などの課外活動への支援を行ったこと

- ③ 地域のニーズに対応した社会人対象のリカレント教育等を学部等の特色を生かして実施し、延べ1,000名を超える参加があったことや、児童生徒を対象としたプログラミング教室を開催し、受講した生徒が「中高生国際 Ruby プログラミングコンテスト」で最優秀賞を獲得するなどの成果を上げたこと

など、教育内容の充実に向けた取組や、大学の特色を活かした地域貢献による成果が認められたことは、高く評価できる。

- 業務運営の改善及び効率化に関しては、RPAの導入による業務改善の取組を行ったこと、教育研究組織体制の見直し状況を整理し、第四期中期計画に反映させたことは評価できる。
- 財務内容の改善に関しては、外部研究資金の採択に係る個別相談会の開催などの支援を行ったこと、新型コロナウイルス予防対策費への対応のため、削減目標の設定を行ったことや学内役員によるヒアリングを実施し予算編成の透明化を図ったことは評価できる。
- 自己点検・評価・改善及び情報の提供に関しては、戦略的な広報活動を展開するため、大学としての統一的・基本的な方向性を定めた広報方針の策定や統一的なブランドイメージ発信に向けた「岩手県立大学タグライン」の制作開始など、積極的に取組を行ったこと、Web オープンキャンパスの開設及び新型コロナウイルス感染症に配慮した上での3年ぶりの対面型オープンキャンパスの実施等による情報発信の取組を行ったことは高く評価できる。
- 安全管理等に関しては、カーボンニュートラルへの対応を踏まえ、「滝沢キャンパス等再生計画（仮称）」の素案を作成したこと、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、遠隔授業の実施体制の整備等の取組を行ったことは評価できる。

本評価結果記載の用語解説

リカレント教育: 大学などの高等教育機関等が、主に学校教育を終えた後の社会人向けに、職業上の新たな知識・技術や日常生活における教養の修得等を目的として行う教育のこと。

RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）: 人間がコンピューター上で行う入力作業や定型的な業務をソフトウェアによる処理で自動化すること。

岩手県立大学タグライン: 大学の一貫したブランドイメージの発信、定着促進のため、公立大学法人岩手県立大学が設置する岩手県立大学、岩手県立大学盛岡短期大学部及び岩手県立大学宮古短期大学部の理念や価値、社会や生活者との約束を簡潔に表現したフレーズ。

カーボンニュートラル: 温室効果ガスの排出を全体としてゼロにすること（二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」から、植林、森林管理などによる「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることを意味する。）

数理・データサイエンス・AI: データを処理・分析して、科学のおよび社会に有益な知見を引き出そうとする学問分野。そこでは情報科学、統計学、アルゴリズムなどの手法・技術が横断的に活用されている。

滝沢キャンパス等再生計画（仮称）: 修繕計画に留まらず、省エネや災害、次世代の教育環境等の社会ニーズを見据えたキャンパス等の再生を目指して策定するもの。

3 項目別評価

I 大学の教育・研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

⇒「おおむね計画どおり進んでいる」。全ての項目が「B評価」以上であり、「A評価」以上の項目が93.1%を占めていることは、評価できる。

II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

⇒「計画どおり進んでいる」。全ての項目が「A評価」であったことは、高く評価できる。

III 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

⇒「計画どおり進んでいる」。全ての項目が「A評価」であったことは、高く評価できる。

IV 自己点検・評価・改善及び情報の提供に関する目標を達成するための措置

⇒「計画どおり進んでいる」。全ての項目が「A評価」以上であったことは、高く評価できる。

V その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置

⇒「おおむね計画どおり進んでいる」。全ての項目が「B評価」以上であり、「A評価」以上の項目が75.0%を占めていることは、評価できる。

(1) 項目別評価の状況及び「A A評価(特筆すべき進行状況にある)」の取組

別表のとおり。

(2) 改善が望まれる取組

「C評価(やや遅れている)」及び「D評価(重大な改善事項がある)」の項目がなかったことは、各事業の着実な推進が認められ高く評価できる。今後、B評価の項目の目標を達成するよう、第四期中期目標期間における取組の充実が望まれる。

【別表】項目別評価の状況及び「AA評価（特筆すべき進行状況にある）」の取組

評価の判断基準

法人の実績報告において「特記事項」として報告されているもののうち、下記と認められるもの

- ①年度計画に掲げる取組を達成しつつ、更に中期計画に沿った取組が付加・実現されているもの
- ②取組の結果、何らかの成果が明らかになっているもの

区分	評価				AA評価項目	摘要
	区分	法人	委員会	委員会評価の割合 (%)		
I 大学の教育・研究等に関する目標を達成するための措置 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 「おおむね計画どおり進んでいる」と判断される </div> ※AA～B 評価割合 100.0%	AA		3	10.3	◎全学的な取組 （1）専門教育との有機的な連携に配慮した基盤教育課程の構築に向けた取組【No. 2】 <ol style="list-style-type: none"> 1 情報教育の環境を整えるため、文理融合データサイエンス教育プログラムについて、基礎的教養を身に付けるリテラシーレベルの科目群を令和4年度前期から開講し、これに合わせ令和4年度入学生から学生全員にノートパソコンを必携化するとともに、評価基準を作成した。また、より発展的な応用基礎レベルの科目の令和4年度後期及び令和5年度からの開講に向け、数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムの教育目標を分析してその基準に準拠したシラバスを作成した。 さらに、当該プログラムの周知を図るためにプログラムの意義や学修目標、内容等を大学ホームページや履修の手引き等に掲載するとともに、学部の全1年次生必修の基礎科目「大学で学ぶ・大学を学ぶ」（前期開講）の授業においてプログラムの紹介を行った。 この結果、後期に一部開講した応用基礎レベルの科目には定員を超える履修希望があった。 加えて、正課外として、数理に関する基礎学力強化のため全学的な数学学習相談室を35回開講し、延べ9人の学生が参加した。 2 令和3年度に体系化したキャリア教育について、評価基準の検討を行い、外部評価と内部評価の両方を用いること、外部評価として思考力テストにより評価を行うことを決定するとともに、内部評価として学修評価の基準を作成した。 3 学部の2～4年次生を対象として、学修成果を測るために「基盤教育アンケート」（令和3年度から実施している基盤教育科目を対象とした学生調査）を実施し、アンケート結果を学内会議（基盤教育運営委員会）で共有した。 4 計画に加え、高等教育推進センターにおいて、英語科目の学修成果のアセスメント方法であるTOEICプログラムのスコア分析を行うとともに、3年進級時に必要とされる英語力について各学部に関き取り調査を行い、資料として取りまとめるなど、英語科目のカリキュラムの改定に向けた取組に着手した。 専門教育との有機的な連携に配慮した基盤教育課程の構築について、文理融合データサイエンス教育プログラムを開講し、評価基準を作成したほか、発展的な応用基礎レベルの科目の開講に向け、数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムの教育目標を分析してその基準に準拠したシラバスを作成する等により、中期計画の達成に向け大きく進捗したと判断した。	
	A	27	24	82.8		
	B	2	2	6.9		
	C	0	0	0.0		
	D	0	0	0.0		
	計	29	29	100.0		
※凡例 AA：特筆すべき進行状況にある A：計画どおり進んでいる。 B：おおむね計画どおり進んでいる。 C：やや遅れている。 D：重大な改善事項がある。						

区分	評価			A A 評価項目	摘要
	区分	法人	委員会 委員会評価の 割合 (%)		
				<p>(2) 学生への経済的支援、課外活動の支援、学生の主体的学修を支援するための取組【No.14】</p> <p>1-1 学生からの各種相談に的確に対応するため、事務局と心理相談やソーシャルワーカーなどの専門職員が連携し、必要な支援等を行った。経済不安等の生活課題を抱える学生に対しては、学外ソーシャルワーカーによる相談窓口に仲介するなど、継続して支援を行った。(学外ソーシャルワーカー利用件数 10 件)</p> <p>1-2 授業料減免制度並びに本学独自の奨学金制度の周知を行い、国の修学支援新制度、本学独自制度(一般)、本学独自制度(震災)の3つの授業料減免制度により授業料を減免し、延べ918人、223,969千円の授業料を減免した。</p> <p>また、本学独自の貸与型奨学金である学業奨励金に新たに20人を追加採用し、計55人に貸与を行った。加えて、学修・研究に注力することでアルバイト時間が減少すること等による収入減や就職活動等による支出増といった経済・学修環境が変化する卒業年次生を経済的に支援するために本学独自の給付奨学金「本庄照子奨学金」を新たに創設し、24人を採用した。</p> <p>2-1 後援会と連携し、学生会へ活動支援費(4,750千円)を配分する等経済的な支援を継続して行った。</p> <p>2-2 さんさ踊りパレードへの参加、大学祭の開催等、新型コロナウイルス感染症の影響により低迷していた活動が徐々に再開できるようになったことから、学生会やサークル等が行う新入生の加入促進の取組を支援するとともに、学生間でイベント参加や開催に必要な手続きが確実に継承できる体制となるよう学生団体のミーティング等に参加し、意見や要望に対して助言したり、大学側の見解や回答を述べるなどの指導を強化した。</p> <p>2-3 学生の課外活動である政治参加を促進するための学生団体「岩手県立大学明るい選挙推進サポーター県大 Voters」が、学内での不在者投票支援ブースの設置や選挙事務所ツアー、選挙公報について理解を深める活動、滝沢市選挙管理委員会が設置する期日前投票所の運営補助等を行った。この活動が評価され、第26回参議院議員通常選挙に係る総務大臣表彰を受賞した。</p> <p>3 授業と連携した情報検索講習を開催するとともに、学部等や教員と連携して学術雑誌等の整備検討や、選書及び除籍を実施した。</p> <p>【情報検索講習】講習回数22回、参加者延べ860人 【学術雑誌等の整備】 和雑誌199種、洋雑誌45種、電子ジャーナル32種、データベース8種 【選書】3,197冊(うち電子112冊) 【除籍】確認回数2回、除籍冊数6,369冊</p> <p>4 図書館の効果的な活用を促し、学生の主体的な学修を支援するため、学生図書活動団体(ライブラリー・アテンダント)と協働し、カウンターや講習会での学生目線に立った利用案内や、ホームページや館内掲示等による図書館利用等に関する情報発信、蔵書を紹介する企画展示を行った。(企画展示開催26回)</p> <p>また、「学び合い文化創造事業」と連携し、学生同士の学び合いを目的とした本の紹介イベント「知的書評合戦ビブリオバトル」を開催した。(イベント回数2回、参加者数延べ30人)</p> <p>5 関係部局との連携を強化するため、各学部等において学籍異動や学生個人の状況を報告し、検討を行うために毎月開催している学生委員会での情報を共有するとともに、ソフトウェア情報学部において導入している学生面談WEBシステムに学籍異動の状況を反映する機能と面談進捗の一覧機能を追加することで、学生面談業務を効率的に進めた。</p> <p>経済不安等の生活課題を抱える学生に対する相談窓口の案内や大学独自の各種奨学金制度の充実、「岩手県立大学明るい選挙推進サポーター県大 Voters」による学生の政治参加を促進する取組が総務大臣表彰を受賞する等により、中期計画の達成に向け大きく進捗したと判断した。</p>	

区分	評価			A A 評価項目	摘要
	区分	法人	委員会 委員会評価の 割合 (%)		
				<p>(3) リカレント教育の実施やICT講座等の開催【No.23】</p> <p>1 アイーナキャンパス等を拠点として、地域ニーズに対応した社会人対象のリカレント教育等を各学部等の特色を生かして実施し、延べ1,000人を超える参加があった。</p> <p>【看護学部】 県の委託を受けて「新人看護職員研修事業」として多施設合同新人看護職員研修及び指導者研修を企画運営したほか、看護実践研究センター独自事業として、看護職に対する12のリカレント教育研修事業を実施した。(参加者数延べ504人)</p> <p>【社会福祉学部】 アイーナ相談事業として、県内の医療・福祉・教育領域の心理職や社会福祉現場の現任職員に対するスーパービジョンを実施した。また、福祉相談・カウンセリングを関係機関の連携の下、県民に提供するなどした。(参加者数延べ190人)</p> <p>【ソフトウェア情報学部】 ICT活用のための県民向け公開講座をアイーナキャンパスで全12回実施した。(参加者数延べ162人)</p> <p>【総合政策学部】 アイーナキャンパス講座を全6回実施した。(参加者数延べ126人)</p> <p>【盛岡短期大学部】 アイーナキャンパス講座を全10回実施した。(参加者数延べ1,218人)</p> <p>【宮古短期大学部】 宮古キャンパスにおいて生涯学習講座を9講座実施した。(参加者数延べ48人)</p> <p>2 児童生徒のICT活用スキル向上及び課題解決能力育成に資するため、次の取組を行った。</p> <p>(1) 滝沢第二中学校を対象としたRubyプログラミング教室を6～8月に12日間開催した。「中高生国際Rubyプログラミングコンテスト」への応募に向け継続的に指導し、14チームが制作した作品を応募、うち2チームが12月の最終審査会に進出し、1チームが最優秀賞を獲得した。</p> <p>(2) 岩手県から「北いわて未来人育成事業出前講座開催業務」を受託し、一戸町の小学校でのドローンプログラミング教室(11月開催、参加者数9人)や、町内の小・中・高校生を対象としたRubyプログラミング教室(1月開催、参加者数3人)をそれぞれ開催した。</p> <p>(3) 雫石町との連携により、町内の小学生を対象としたドローンプログラミング教室を開催した。(11月開催、参加者数25人)</p> <p>(4) 岩手県立大学宮古短期大学部協力会事業の一環として、宮古広域圏内の小学校6年生の児童及び中学校の生徒を対象に「プログラミング教室2022 in 宮古広域圏」を開催した。(8月開催、参加者数6人)</p> <p>3 一般県民向けの公開講座について、滝沢キャンパス講座は、3年ぶりに対面での開催とし、7月～10月の5日間で全10講座を開催し、延べ528人が受講した。併せて、令和3年度に引き続き、ケーブルテレビでの放送とYouTubeでの配信も行った。</p> <p>地区講座については、盛岡市と令和4年度内の開催に向け調整を進めたが、新型コロナウイルス感染症の影響等を踏まえ、市と協議を行った結果、年度内の開催を見送り、令和5年度前期の開催に向け市及び担当教員と再調整を行うこととした。</p> <p>4 計画に加え、社会人や学生を対象とした、数理・データサイエンス・AI分野の最新の知識とスキルの習得を目的とした講座を、6月～2月に、全4コース、18日間開催し、延べ84人が参加した。</p> <p>アイーナキャンパスを拠点に地域のニーズに対応した社会人対象のリカレント教育等を学部等の特色を生かして実施したほか、児童生徒のICT活用スキル向上及び課題解決能力育成のため、県や市町村と連携したプログラミング教室等の開催、社会人や学生を対象とした、数理・データサイエンス・AI分野の最新の知識とスキルの習得を目的とした講座等の開催により、中期計画の達成に向け大きく進捗したと判断した。</p>	

区分	評価				A A 評価項目	摘要
	区分	法人	委員会	委員会評価の割合 (%)		
II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">「計画どおり進んでいる」と判断される</div> ※AA~B 評価割合 100.0%	AA		0	0.0		
	A	8	8	100.0		
	B	0	0	0.0		
	C	0	0	0.0		
	D	0	0	0.0		
	計	8	8	100.0		
III 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">「計画どおり進んでいる」と判断される</div> ※AA~B 評価割合 100.0%	AA		0	0.0		
	A	2	2	100.0		
	B	0	0	0.0		
	C	0	0	0.0		
	D	0	0	0.0		
	計	2	2	100.0		

区分	評価			A A 評価項目	摘要
	区分	法人	委員会 委員会評価の割合 (%)		
IV 自己点検・評価・改善及び情報の提供に関する目標を達成するための措置 「計画どおり進んでいる」と判断される ※AA～B 評価割合 100.0%	AA	1	50.0	(4) 積極的な広報活動や、各種情報媒体を相互に連携させた広報活動の展開【No.41】 1-1 戦略的な広報活動を展開するため、本部・総務室及び学部等からのメンバーで構成される広報方針等検討ワーキンググループにおいて検討し、本学の広報の課題及び将来像等についていただいた意見を参考に、各部局が行う広報を含む本学の全ての広報（危機管理に関する広報を除く。）に関する統一的・基本的な方向性や原則を定めた広報方針を策定した。 1-2 一貫したブランドイメージの発信及び定着の促進のため、本学の理念や価値等を簡潔に表現したフレーズとして「岩手県立大学タグライン」を制作することとし、その制作準備を進めた。 また、令和5年度を迎える開学25周年について、学内構成員の認知度を高め、興味・関心を喚起することにより機運の醸成を図るため、ポスターを作成の上、学内に掲示した。また、国内外に本学の魅力を発信するため、キャンパスの様子や教育・研究概要を内容とする「大学の概要動画」と各学部の教育内容や学生の姿を映した「各学部の概要動画」の2本の多言語動画（日・英・仏・中・韓）の制作を開始し、作業を進めた。 2-1 本学の教育・研究・地域貢献活動や法人運営の状況について認知度を高めるため、各種刊行物を発行した。これら刊行物を、関係各所に適時に配布したほか、ホームページへの掲載、SNSでの記事の紹介を行った。 ・広報誌（9月：8,800部、3月：11,200部） ・大学年報（日本語版：1,000部・英語版：デジタルデータ） ・ファクトブック（300部） ・国連アカデミック・インパクト活動報告書（日本語版：500部、英語版：200部） 2-2 中高生、保護者等を対象に、本学への興味関心を喚起するため、対面型イベント「夏のオープンキャンパス」の開催、「大学紹介番組」の制作及びテレビ放送、志願者向けのポータルサイト「Web オープンキャンパス」の開設を行った。 夏のオープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染症の感染防止に配慮した上で開催し、1,500人を超える来場者があった。また、3年ぶりの開催について県内の民間放送局のニュースで報道された。 大学紹介番組は13本制作し、民間テレビ放送局での放送、本学公式YouTubeチャンネルへの掲載、インターネット広告を実施したほか、SNSで内容を告知した。 Web オープンキャンパスは、YouTube 動画8本及びTikTok 動画17本を掲載したほか、高校生向けのインターネット広告を実施し、令和4年12月末までの閲覧者数は7,287人、ページビュー数は23,034回であった。 3 本学の国際的な学習環境や社会課題の解決について情報発信するため、学外ホームページに「国連アカデミック・インパクト」及び「東日本大震災津波復興支援の活動報告」のページを開設した。 また、志願者向けの情報を集めたウェブサイト「Web オープンキャンパス」を開設した。 戦略的な広報活動を展開するため、大学としての統一的・基本的な方向性を定めた広報方針の策定や統一的なブランドイメージ発信に向けた「岩手県立大学タグライン」の作成開始など、積極的に取組を行ったこと、Web オープンキャンパスの開設及び新型コロナウイルス感染症に配慮した上での3年ぶりの対面型オープンキャンパスの実施等による情報発信の取組により、中期計画の達成に向け大きく進捗したと判断した。	
	A	2	50.0		
	B	0	0.0		
	C	0	0.0		
	D	0	0.0		
	計	2	100.0		

区 分	評 価				A A 評価項目	摘 要
	区分	法人	委員会	委員会評価の割合 (%)		
V その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> 「おおむね計画どおり進んでいる」と判断される </div> ※AA~B 評価割合 100.0%	AA		0	0		
	A	3	3	75.0		
	B	1	1	25.0		
	C	0	0	0.0		
	D	0	0	0.0		
	計	4	4	100.0		
合 計	AA		4	8.9		
	A	42	38	84.4		
	B	3	3	6.7		
	C	0	0	0.0		
	D	0	0	0.0		
	計	45	45	100.0		